

令和4年度組織運営体制

経営・管理者

理事長	西田 孝夫
参与	長田 武彦
施設長・理事	奥 貞晴
総務課長	佐々 孝

大原事業所

支援課副課長・事業所管理者	田川 みゆき
サービス管理責任者	高原 亜理沙
総務課課長補佐	山田 典子
相談支援管理者	坂本 慶顕
相談支援リーダー	谷村 奈智
生活介護リーダー	家次 寛治
生活介護リーダー	阿部 福美
放課後等デイサービスリーダー	

志手原事業所

事業所管理者	小田 和晃
サービス管理責任者	小田 聖子
就労継続支援B型リーダー	

本町事業所

事業所管理者	久保田 智文
--------	--------

すすかけ台事業所

事業所管理者	石橋 悠吾
サービス管理責任者	高辻 京
就労継続支援B型リーダー	

大原事業所男性トイレが新しくなりました

大原事業所も25年が経過し、あちこち老朽化がみられます。男性トイレもそのひとつで、また、死角になることから怪我也みられており、その対策も早急に必要でした。

この度、やまぶき財団様から助成して頂き改修工事を実現することが出来ました。工程は7日間要すことから、利用がない年末年始に深谷工務店様に無理を言い施工して頂きました。床の材質、壁、トイレブース、便器及び洗面所の仕様など、利用者の方の特性に配慮し、業者の方と職員で何度も討議を重ね、令和4年1月3日に完成しました。

床は滑りにくく少し柔らかい材質に変更し、便器は自動センサーにより定時に水が流れ、トイレブースは従前より少し広くとったことで圧迫感がなくなり、洗面所も自動水洗とし感染予防対策にもつなげています。また、床や壁の色が変わったことで清潔感が増し、気持ちよくトイレをすることができるようになりました。



洗面台も明るくなりました



トイレブースも広くなりました



床はタイルから暖かい素材に変更

風 後援会からご入会のお願い

社会福祉法人風後援会は、知的障害者の自立と三田わくわく村の発展を願って平成7年に発足し、寄付活動や理解啓発活動を進めています。

毎年皆様のご入会（ご寄付）により、送迎車両の購入や雨よけ上屋の整備など、利用者の皆さんの活動環境整備を進めています。

今後、一層活動の輪が広がりますよう本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、今年度より事業所等のみなさん方にもご支援いただきたく賛助会員の入会をお願いしています。

個人年会費 1000円
事業所等賛助会費 3000円 振込先は下表のとおりです

金融機関	支店名	口座番号
ゆうちょ銀行		01110-3-66308
三井住友銀行	三田支店(店番391)	普通 3808145
三井住友銀行	ウッディタウン出張所(店番395)	普通 3120072

名義は全て『社会福祉法人風後援会』です

【お問い合わせ】
「風」後援会事務局 三田わくわく村大原事業所内
〒669-1515 三田市大原梅ノ木 1546-5
☎079-564-0909

【新型コロナ感染防止にご協力を！】

三田わくわく村大原事業所では、新型コロナ感染の収束が見えず、所内の感染拡大防止のため、4月1日～8日まで休所とさせて頂きました。（4月4日現在）

事業所内で感染者が発生した場合は、保健所の指導のもと、接触者に対する個別の対応を図るとともに、保護者の皆さまへのご協力（送迎等）をお願いするなど、皆様に安心してご利用いただけるよう、様々な感染拡大防止対策に取り組んでおります。

なお所内には、感覚過敏などの障害特性により、マスクの装着が困難な方もおられますので、障害特性へのご理解も併せてお願いします。

今後とも家庭内において、体調不良や感染不安を感じた場合は、通所を控えて頂き医療機関への受診やPCR無料検査等のご利用を、宜しくお願いします。

皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。重ねてお願い申し上げます。



これからの予定

4/15(木) 歓迎会

※事業所ごとで行います。

わくわく通信

発行 社会福祉法人 風
障害福祉サービス（多機能型）
三田わくわく村
〒669-1515 三田市大原 1546-5
(TEL)079-564-0909
(FAX)079-564-8500
(e-mail) sanda.wakuwakumura@giga.ocn.ne.jp
(Hp アドレス) <http://sandawakuwakumura.com/>

令和4年度 社会福祉法人風 三田わくわく村

コロナ禍での入所式

桜の蕾が膨らみ開花しかけた4月1日。すすかけ台事業所にて、大原事業所・志手原事業所・すすかけ台事業所の新入所者3名（欠席新利用者は3名）で、入所式を行いました。

入所者の紹介後、先輩やご家族が見守るなか、施設長からの挨拶に続いて仲間からの挨拶では、活動を共にする一人として、それぞれの言葉で歓迎の想いを伝えました。



上野ケ原特別支援学校のビデオレター

和田山特別支援学校のビデオレター

高等特別支援学校のビデオレター

神戸特別支援学校のビデオレター

新入所者の方々

ひまわり特別支援学校のビデオレター

新しい仲間が通った特別支援学校の先生からは、ビデオレターで温かいお祝いのメッセージをいただきました。最初は緊張した面持ちで祝辞を聞いていましたが、最後に先輩利用者からお祝いの言葉を受け取ると、表情も和らぎ笑顔がみられました。



記念撮影

さて、3月は肌寒い日もありましたが、そのお陰で昨年よりもこの時期に桜が長く咲くように思います。すすかけ台の周りでも美しい桜が咲き始めました。4月中旬には各事業所で歓迎会を予定しています。近隣の公園に行き、お弁当を食べ、ゆっくりと散歩してそれぞれ楽しい時間を過ごせる機会を設けています。

心機一転、毎日が桜に負けないくらい綺麗な笑顔が溢れるように、応援・支援していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

令和4年度の運営方針と予算

新型コロナウイルスにおける変異株の急速な置き換わりと共に全国的に感染が拡大するなど、収束の見通しが難しい状況であり、引き続き国・県等からの通知を堅持・継続し、感染対策を徹底して、日中活動の充実に向け取り組んでいきます。

今年度は「第三期中期運営計画」（令和4年～令和8年）の初年度となり、その実現を目指し関係機関、保護者等と協力・連携し進めていくと共に多様化するニーズへの対応や魅力あるサービスの提供により利用者確保に努め安定した経営につなげていきたいと思ひます。

具体的には、

1. 一人ひとりが安心して暮らせる温もりのある社会の実現を目指し、組織ガバナンス充実のために理事役員を増員するほか、事業運営の透明性に向け IT を活用し様々な SNS 情報導入の検討や財務規律強化に努めていきます。
2. 無償借用していた志手原事業所の土地については、当面10年の間は有償賃貸借契約とします。また、今年度における重点的に取り組んでいく内容については下記の通りです。

（重点項目）

- ① 利用者の平均年齢は32歳であるが40歳以上が約28%（昨年より3ポイント増）を占めており、高齢者に注視した生活リズムや作業内容を工夫した就労継続支援事業B型の具体的な取り組みをすすかけ台事業所で充実します。また、65歳以上になると介護保険制度が優先されますが、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることや馴染みの深い職員や利用者とのサービスの継続ができるよう、すすかけ台事業所で共生型サービスの開設を検討します。
- ② 強度行動障害や障害の重度化に対応するため、外部研修と内部研修を重層的に継続し、自立訓練事業については、従来の生活訓練に加え、自閉症及び強度行動障害者に特化した支援を確立し、自立に向けた訓練を新たに実施します。
- ③ 相談事業の充実に向け、適切な障害福祉サービスが確保されるよう連絡調整を行うと共に関係機関との連携を強化していきます。
- ④ 農福連携事業の更なる事業拡大を行い、製菓部門については、黒豆や柚子を使った新商品の開発を進め、営業などにも力を入れて定期的に納品できる体制を整えます。また、給食から食パン製造を復活させ工賃アップにつなげていきます。
- ⑤ 給食については、材料費の見直しを図り、充実した食事メニューにするなど、利用者の楽しみとなるように工夫します。
- ⑥ コロナウィルス感染予防に向け衛生用品や検査キットの備蓄や、更なる感染対策の強化に努めます

令和4年度予算

科目	R4年度予算(a)	R3年度決算見込(b)	増減(a)-(b)
<事業活動による収支>			
就労支援事業収入	12,842	10,842	2,000
障害福祉サービス等事業収入	278,432	272,977	5,455
経常経費寄附金収入	100	100	0
その他	81	81	0
事業活動収入計	291,455	284,000	7,455
<事業活動による支出>			
人件費支出	188,700	179,571	9,129
事業費支出	28,630	26,999	1,631
事務費支出	32,412	31,503	909
就労支援事業支出	12,898	13,170	-272
その他	0	0	0
事業活動支出計	262,640	251,243	11,397
事業活動資金収支差額	28,815	32,757	-3,942

外部から見た三田わくわく村(第三者評価)

前回の10月号でもお知らせしましたように、大原事業所の生活介護事業を対象に第三者評価を受審しました。保護者の皆様にはアンケートへご協力いただきまして、ありがとうございました。

「第三者評価の目的とは…」??

評価結果を幅広く利用者や事業者公表することで、サービスの利用を希望される方や家族には必要な福祉サービスを選択するための情報源の一つとして提供し、事業者はサービスの質の向上に結び付けます。

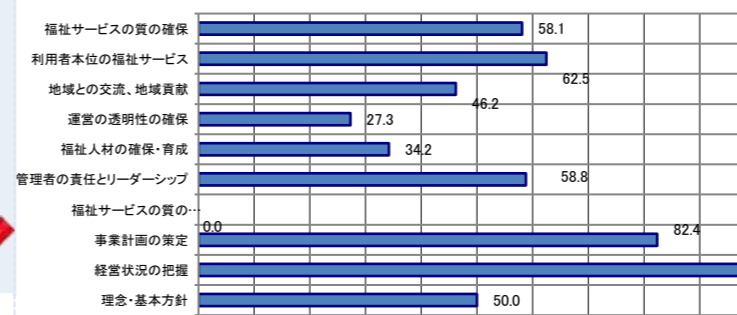
厚生労働省からの通知で、第三者評価が義務付けられているのは保育所や社会的養護関係施設であって、三田わくわく村が運営する障害者・児通所サービス事業所は任意となっています。今回、私達は先駆けて受審し、より良いサービスの提供に繋げていきたいと考えています。



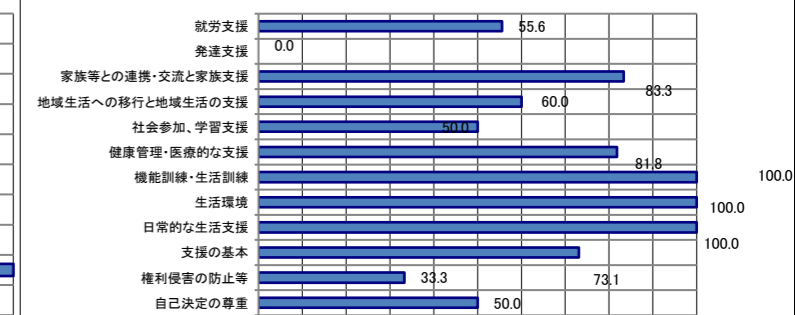
結果は？

- 障害の多様性が言われるなか、他事業所では困難な事例を積極的に受け入れるなど、多くの重度障害を持つ利用者の特化した個別支援を重視している。
- 職員の専門知識や技術の習得、スキルアップに向け、継続した研鑽の場を提供していくことで職員の自信と意欲が高まっている。
- 比較的早期よりパソコンのネットワークシステムを導入して、利用者の状態変化の把握や柔軟な個別支援計画の見直し、職員間での共有等迅速な対応ができる環境を整備し、働きやすい職場環境への意識が高い。
- 現在、キャリアパス制度の導入により、職員の育成環境の整備に努めているが、モチベーションアップに必要な主体性及び積極性を育む体制が、より求められる。職員一人ひとりが自らの目標に向け、計画的に実践、研鑽できるしくみを検討する必要がある。
- 利用者の高齢化は事業所内外で課題としてあがっているが、障害の有無や年齢に関係なく誰もが住みやすい地域づくりを法人として考え、地域と協働して取り組むためにも、法人の理念、考えをわかりやすく、折に触れ情報発信して地域に伝える啓発活動を積極的に行っていく必要がある。

利用者支援の達成度



運営の達成度



「これから…」

第三者評価は今後3年ごとに継続して受審していく事を考えています。今回の結果を真摯に受け止めて改善していき、次回はより良い評価を得られるように職員一丸となって取り組んでいきますので、これからも温かく見守って…応援して…時々喝を入れていただくと嬉しいです。何かお気づきのことがありましたら、いつでもお声掛けくださいますようお願い致します。 ※詳しい評価結果は独立行政法人 福祉医療機構（ワムネット）のサイトの、「福祉サービス第三者評価」に掲載されています。

<https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>
三田わくわく村のホームページにも掲載しています。

